



## 新たな飛躍の年に あたって

日産自動車株式会社  
最高執行責任者

志賀 俊之

2013年6月には、当社が企画から参画した初めての軽自動車、日産「デイズ」を投入いたしました。当社が軽市場に参入してから11年が経過しますが、参入当時に3割だった軽自動車の全体需要に占める割合は、いまや4割に迫ろうかという勢いであり、より競争力の高い商品が求められています。

このため、2011年に三菱自動車と共同で合弁会社NMKVを設立し、切磋琢磨してきた結果、ライバルと伍して戦うことが可能な商品を投入することができました。おかげさまで市場からの評判も上々で、2013年度はよいスタートダッシュが切れました。このモメンタムを止めることなく、国内向けには今後、高級セダンや軽自動車第2弾の「デイズ・ルークス」など、商品力の高い車種を数多く投入していきます。

グローバルに目を転じて、2013年は新型ローグ、新型キャシュカイなど、米欧での主力車種が相次いでモデルチェンジする予定です。ラグジュアリーブランドであるインフィニティの旗艦車種であるQ50や、新たな取り組みであるダットサンブランドもお客さまにご披露できる予定です。まさに新たな飛躍の年のシンボルとなることでしょう。

持続可能なモビリティ社会の実現のため、当社が

力を入れている分野のひとつがゼロ・エミッション事業です。世界初の量産100%電気自動車、日産リーフのグローバルでの販売台数は2010年12月の発売以来、74,000台(2013年9月現在)を数え、その間の走行距離から計算されるCO<sub>2</sub>削減量は16,245トンとなりました。

日産リーフに搭載している駆動用の大容量リチウムイオンバッテリーに蓄えた電力を住宅へ供給するLEAF to Homeの普及にも引き続き取り組んでいきます。電力需要の低い夜間に蓄電した電力を昼間



デイズとデイズ ハイウェイスター(手前のモデル)

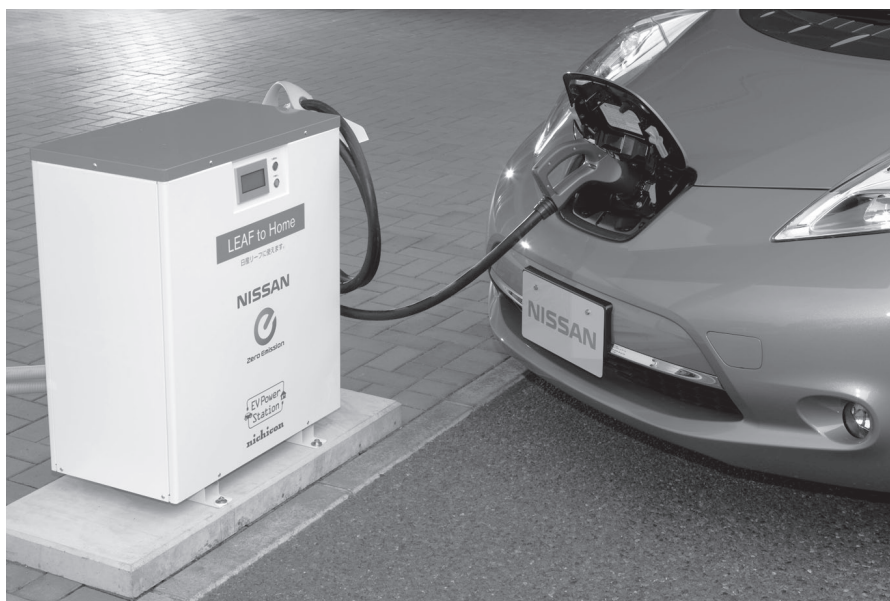
使用することで消費ピーク電力の低減、さらには非常時のバックアップ電源としての活用、太陽光発電などの再生可能エネルギーの有効活用など、社会に貢献しています。

電気自動車普及に注力する一連の活動は、燃料電池自動車への取組等とともに高く評価され、インターブランド社による「ベスト・グローバル・グリーンブランド 2013」において5位にランクインしたことは喜ばしいことでした。

さらに、日産リーフに続く第2弾の電気自動車となる「e-NV200」、超小型電動車両である「日産ニューモビリティコンセプト」を用いた各種の実証実験を全国で引き続き展開し、新しい可能性の模索を続けていきます。日産は、豊かなゼロ・エミッション社会の実現に向け、全社をあげて邁進し続けていく所存です。

一方、「自動運転」への取り組みを発表いたしました。日産は、2020年までに革新的な自動運転技術を複数の車種に搭載する予定です。車両の周囲の危険をモニターし、必要な場合には、ドライバーへ警告を発し、アクションを取るという「セーフティ・シールド」の考え方の延長線上にある新しい技術です。

交通事故は人為的なミス、不注意が原因の多くを占めています。自動運転技術の基盤として、日産はこのような悲惨な事故の原因となる状況を検出し、それに対処する技術を持っていることを近い将来、お見せ



LEAF to Home

できることでしょう。

また将来的には、自動運転技術はドライバーの労力も減らすこととなります。高齢者や障がい者にとっても、自動運転は“自立”を提供できます。日産の目指す、“すべての人にモビリティを”につながる画期的な技術であると確信しています。

世界をリードする自動車会社として、魅力あるクルマをお客さまに提供するだけでなく、クルマの普及に伴って生じる社会的な課題を解決する責任があります。社会の持続的な発展に貢献するため、様々なCSRの取り組みを行っています。

持続可能なモビリティ社会の実現のため、安全への取り組みにも力をいれています。安全では、日産車に関わる死亡・重傷者数をゼロにするという究極の目標の達成に向けて「クルマ」「人」「社会」という3つの階層で取り組みを行っています。「クルマ」では、「クルマが人を守る」というコンセプト「セーフティ・シールド」を基本に技術開発を進めています。2012年は、「踏み間違い衝突防止アシスト」をエルグランドに搭載、また、「緊急操舵回避支援システム」を発表しました。2013年には、さらに前述の「セーフティ・シールド」を進化させ、これまでの安全技術と新技術を組み合わせ自動運転の実現につながる技術を公開しました。2020年の実用化を目指しています。

今後も企業ビジョン「人々の生活を豊かに」のもと、魅力ある商品を提供し、また、持続可能なモビリティ社会の発展のため尽くしてまいります。



日産リーフ